

オーストラリア・メルボルン大学留学報告

農学部 比嘉優美子

○留学先: オーストラリア、メルボルン大学獣医学部

○留学期間: 22年3月～23年3月

○渡航時の学年: 6年次

○渡日前の手續について

・留学に至った経緯について:

宮崎大学に入学したときから、こちらの獣医学科がメルボルン大学と学術協定を結んでいることを調べていて、ぜひ海外で獣医学を学びたい、また、特にオーストラリアでは獣医師がどのように働いているのを感じたいと思っていたので、何年掛かっても宮崎大学在学中に留学の経験をしたと思っていました。今回、幸いにも奨学金を頂くことができ、留学担当の先生のサポートもあり、留学することができました。実際には現在の研究室に関連する研究分野でこちらに来ることになりましたが、とてもいい経験になりました。

・大学での手續について:

宮崎大学での留学手続きの流れとしては、はじめに協定を結んでいる研究室の教授の先生に受け入れの許可をもらうことから始まりました。こちらの大学の先生方は、主に成績証明書と英語の試験(TOEFL, IELTS)結果を参考にして学生を受け入れるかどうか決めるようなので、前もって英訳された成績証明書と在学証明書を準備しておくことをおすすめします。宮崎大学の教務科では英文の成績証明書を発行するのに長い時間が掛かるようなので、留学を希望される方は成績証明書が必要でない場合でも、前もって教務科の方に発行してもらった方がいいと思います。相手先の大学の先生から、受け入れ許可を頂いたあと奨学金へ応募しました。奨学金の応募にも研究室の先生または、担当教員の先生に推薦書を書いてもらう必要があるのも先生方にも前もって推薦書をお願いしていた方がいいと思います。奨学金の受給が確定した後に、ビザの申請をしました。国によって違うと思いますが、オーストラリアではビザの申請にはかなりの時間がかかると思うので、できるだけ早く申請していた方がいいと思います。

・査証取得:

私の場合、Occupational Trainee Visa (職業研修ビザ)を取得しなければいけなかったもので、いくつかの段階を踏む必要がありました。まず始めに、メルボルン大学の方にスポンサーになってもらう必要があって、このスポンサーシップを証明するために、派遣先の大学側から Australian Government Department of Immigration and Citizenship にいくつかの書類を送っていただきました。この書類が確認されてから、自分自身の準備した必要書類を Adelaide Occupational Trainee Processing Centre (AOTPC)の方に申請しなくては行けませんでした。私の場合、留学先の大学側からの書類の申請が遅く留学予定日までにビザが発行されないかも知れない状況だったので、留学先の大学とAOTPCに直接メールで問い合わせ、ビザ発行を急いでいただきました。

必要書類としては、Application for a temporary residence visa (non-business)、奨学金受給証明書、留学(旅行)保険証明書、受け入れ証明書、英語の試験(IELTS, TOEFL, etc)の結果、パスポートの映しです。この書類が受理されてから、AOTPC から他に必要な申請書類および健康診断の証明を送るよう連絡が来ます。その連絡が来てから、日本で指定された病院に行って健康診断をして、指定病院の医師の方から健康診断証明書をAOTPCに提出してもらう必要があります。健康診断にかかる費用は留学生が負担することになります。健康診断の結果が無事受理された後にビザが発行されます。詳しい情報はオーストラリアの移民局のホームページに載っているので、ホームページをチェックすることをお勧めします。オーストラリアでは、ビザの申請の内容や書

類提出方法、申請者の資格などが短い期間で変わることも多いので、そのためにも移民局のホームページをチェックすることをお勧めします。

○留学体験記:

留学派遣先の渡航費用は安いチケットがとれた場合は往復で8万円くらいです。こちらは宮崎と比べるとお家を借りるのが高いので、ほとんどの人がシェアハウスで生活しています。シェアハウスは安いところで、月4~6万円程度です。物価も高めになるので、普通のスーパーで買い物をすると宮崎に比べると高くなります。週末や平日でも朝早くから市場が利用できるのも、そちらの方で食料を買って安く生活費を押さえることができます。

大学はメルボルンのシティー中心部から tram で5分くらいのところにあるので、とても便利です。獣医学科の臨床系の研究室はシティーから30分~40分くらい離れたところのキャンパスに立地しているので、少し状況が変わるかと思います。

私はこちらの方では研究室に所属させてもらって、他の PhD の学生さん達と研究させてもらいました。研究室に来た日から、教授の先生とどういった研究がしたい、どの分野に興味があるかなどを話し合っ、プロジェクトの内容を決めました。こちらでは先生方がこの研究室では主にこういう研究をしていて、こんなプロジェクトがあるということ丁寧提示してくださったので、初めて来て不安もかなりありましたが、先生方のサポートのおかげで無事に研究を始めることができました。

こちらの獣医学部では、研究系と臨床系がしっかりと分かれているので、研究系に興味を持った獣医学科の学生または科学系の学生さんたちだけが honour year として研究室に入るようです。獣医学科の学生さんの8割強は臨床獣医師を目指しているようなので、研究室に入るのではなく、卒業して獣医師として働けるように最後の2年程度は違うキャンパスで臨床のトレーニングをするようです。私の所属している研究室は、外国からの留学生が多く、バングラディッシュ、スリランカ、イラン、ラテンアメリカ出身の学生さんが PhD の勉強をしています。オーストラリア人の学生さんも居ますが、あまり多くないです。獣医学科の Undergraduate の学生さんはアジア系の方がほとんどです。研究室の学生さんまたは研究助手の方々それぞれ特化した実験技術を持っているので、わからないことは学生同士、担当教員、またはスタッフを含めてみんなで助けあって実験をしている印象を受けました。毎週1回あるラボミーティングでは論文の紹介や、実験の状況などを報告していました。この機会に新しい発見や報告を聞いたり、自分の実験に対するアドバイスなどを他の学生さんやスタッフ、先生方から沢山もらえるので、自分が気づけなかったことや、上手く行かないことでも、解決の糸口を得ることができて、とても重要で建設的な時間だと感じました。また、他の学生さんがどんな研究をしているのかを知るのにもとても良い機会になりました。

こちらの研究室では周りの方々本当に親切で、和気あいあいとした環境でお互いに助け合っ研究をしているので、こちらで勉強させて頂いてこの経験をさせて頂いて本当にありがたく思っています。この経験をぜひ今後も生かして行けるようにしたいと思います。

○今後、留学を希望する宮大生のみなさんへ

事前に準備することが色々あるので、留学の準備には1年は掛かると考えた方がいいと思います。留学では、留学中はもちろんですが色々準備するために留学前にも自己負担しなければいけないお金が必要になってくるので、そのことも考慮に入れて留学を考えた方がいいと思います。

留学する前には、色々なことを考えて本当に行くべきかどうか悩むこともあると思いますが、奨学金などの援助や留学したいという決意があるのならぜひ留学してほしいと思います。留学する人によって留学先での感じかたや考え方は違うと思いますが、海外での生活を経験することで多かれ少なかれ、何かしら影響を受けたり、得るものがあると思います。特に大学に入ってから留学は、語学習得だけの目的ではなく、他の国の文化や考え方などを理解するのにもとてもいい時期だと思うので、海外に行きたいと思っている人にはぜひ海外に行ってほしいなと思います。